

横瀬小学校
「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- ①「基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させる指導の充実」
- ②「子どもの思考力・表現力を育む授業づくり」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
教諭・研修主任 横山 利恵	校長 大久保康雄 教頭 張間 尚久 教諭・教務主任 松村 洋子 教諭・特別支援コーディネーター 片山 景子 教諭・人権教育主事 久米 知世

校長 大久保 康雄 印

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 昨年の全国学力調査や標準学力検査の結果によると、国語の言語に関する問題、算数の数と計算問題において全国平均を上回る学年が多かった。特に基礎的な計算はどの学年もよく身についている。	漢字や計算などの基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。	評価テストで国語の言語に関する知識・理解と算数の技能の観点で正答率を、下学年85%以上、上学年80%以上にする。			
課題 どの学年も個別に見ると漢字や計算など、基礎的・基本的な知識・技能が十分身につけていない児童がいる。また、自分の考えを分かりやすく文章で表現する力に課題が見られる。	具体的方策(教員の取組) ①「楽しくて分かる授業」づくりをめざす。 ②漢字・計算の小テストなど、基礎・基本を身につける時間を充実させる。 ③授業に音読をできるだけ取り入れるとともに、家庭でも音読の練習をする習慣をつける。	取組指標 ①個に応じた指導の工夫をする。 ②毎週火曜日を算数タイムの日、毎週金曜日を国語タイムの日に設定し、漢字・計算の指導を充実させる。 ③毎日の音読練習の実施状況を確認する。		評価	次年度における改善事項

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 昨年の全国学力調査や標準学力検査の結果によると、思考力・読解力の問題で全国平均を上回る学年が多かった。算数の時間には、自分の考えを進んで発言する児童が増えてきた。	根気強く考えたり、自分の思いや考えを進んで表現したりする。	評価テストの思考力・読解力の項目で、低学年で正答率を80%以上、中・高学年で、70%以上にする。			
課題 全体的に国語の記述式問題の正答率は低く、算数では、問題文をイメージしたり、図式化したりする力に課題が見られる児童が比較的多い。	具体的方策(教員の取組) ①授業の中に、話し合いや討論などの場を設定し、自分の意見を臆せず言える雰囲気をつくる。 ②新聞や図書などの活字に親しませ、読書活動の充実を図る。 ③意見や感想などを書く活動を充実させる。	取組指標 ①ペア、グループ、全体などの学習形態を工夫し、意見を言う場を意図的に設定する。 ②1日平均10分以上読書する子どもの割合を80%以上にする。 ③算数クイズに全校で取り組む。		評価	次年度における改善事項

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 与えられた課題に対して、真面目に取り組む児童が多い。	①課題に積極的に取り組み、根気強く頑張ることができる。 ②家庭学習に進んで取り組み、自主学習の仕方を工夫できる。	「学年×10分以上家庭学習をする」の達成率を80%以上にする。 (月～金の平均)			
課題 質問紙の結果などから自尊心の低い児童が多いことが分かった。また、「学年×10分以上」の家庭学習も、学年が進むにつれて、できていない割合が増えている。	具体的方策(教員の取組) ①学ぶ楽しさや達成感、自信が得られる授業を工夫する。 ②月始めの1週間、家庭学習チェックカードを作成し、家庭と連携して子どもたちの学習意欲を高める指導をする。 ③自主学習の仕方や、自主学習ノートの書き方などを例示する。	取組指標 ①家庭学習チェックカードを活用し、担任が毎日実施状況を確認し、指導助言する。 ②自主学習をポイント制にしたり、優れた自主学習ノートを通信で掲載したりする。		評価	次年度における改善事項

平成29年度 学力向上ロードマップ

